

## (ページコラム 7)政治家のホームページあれこれ

最近では、政治家のほとんどがホームページ（以下「HP」と略す）を持っている。さっぱり更新されていないのもあるが、日に何回もブログを書き、実際はかなり膨大なアクセス数を誇っている人もいる。もちろん、今の段階では大マスコミの影響力とは比べものにならないが、マスメディア自体が、政治家や芸能人のHPを見て、そこに書かれていたことを報道する例もあるから、これからますます重要になっていくだろう。

私は、小学生の頃から国政に関心を持っていたので、もう60年以上それをウォッチしてきたことになるが、官僚時代は別として、政治家と直接接することはほとんどない。結局、彼ら进行评估する材料は、新聞、テレビ、雑誌等のマスメディアを通じた報道ということになる。しかし、それらは本人の生の声を再現しているわけではないから、当然のことながら、伝えるメディアの評価が混入してしまう。

ところが、ネット時代になったおかげで、彼らのHPを見れば、そのプロフィールや基本的な主張の方向はわかる。そして、日々の活動もブログ等の形で発信している人たちが多いため、その活動実態もかなり知ることができる。

これらを見ていると、政府や党の要職に就いていなくても、例えば、事業仕分けの準備チームに志願して参加し、かなりの時間を割いて、仕分けのための資料を地道に整えている人もいる。他方で、国会議員なのに、選挙区内の盆踊りに行った、お祭りに行った、運動会で挨拶をしたなんてことばかり載せている例もある。

政治家には選挙があるから、そんなことをやるのもある程度はやむを得ないが、国会議員なら国政のために何をやっているかが問題であって、選挙区内での売名行為ぶりを書きまくってみても、本人のプラスにはなるまい。

今の衆議院のように小選挙区では、一つの政党から一人の候補者しか出ないため、支持する政党の議員のHPがそのようなパターンだと選挙民は選択に困ってしまう。

国政は基本的に政党政治で、議決の際には原則として党議拘束がかけられているから、選挙では政党を選ぶことが圧倒的に重要だけれども、一般に大政党になればなるほど、多種多様な人が混在しており、単に政党公認だけでは判断に苦しむ場合も起こり得る。

その点では、かつて衆議院で半世紀近く行われていた、1選挙区の定員が3~5人の中選挙区にも、それなりの妙味があった。小政党支持者の票が活かされ易いというのみならず、大政党支持者にとっては、政党に加えて人まで選べたからである。

選挙制度に絶対的な正解などあり得ようはずもないが、日本では「議会政治の母国」などとイギリスに範を求めたがる趣が以前から強い。二大政党制が持ち上げられ、そのためには小選挙区だということ、90年代に衆議院の選挙制度が大きく変わったが、その母国イギリスで第3党が勢力を拡大し、連立政権になっていることは周知のとおりである。ネットのおかげで、選挙民は幹部でない一般議員の細部まで知ることができるようになったのだから、政党と併せて人物も選びたいのが、選挙民の思いではなかろうか。